



地域と医療を結ぶ広報誌

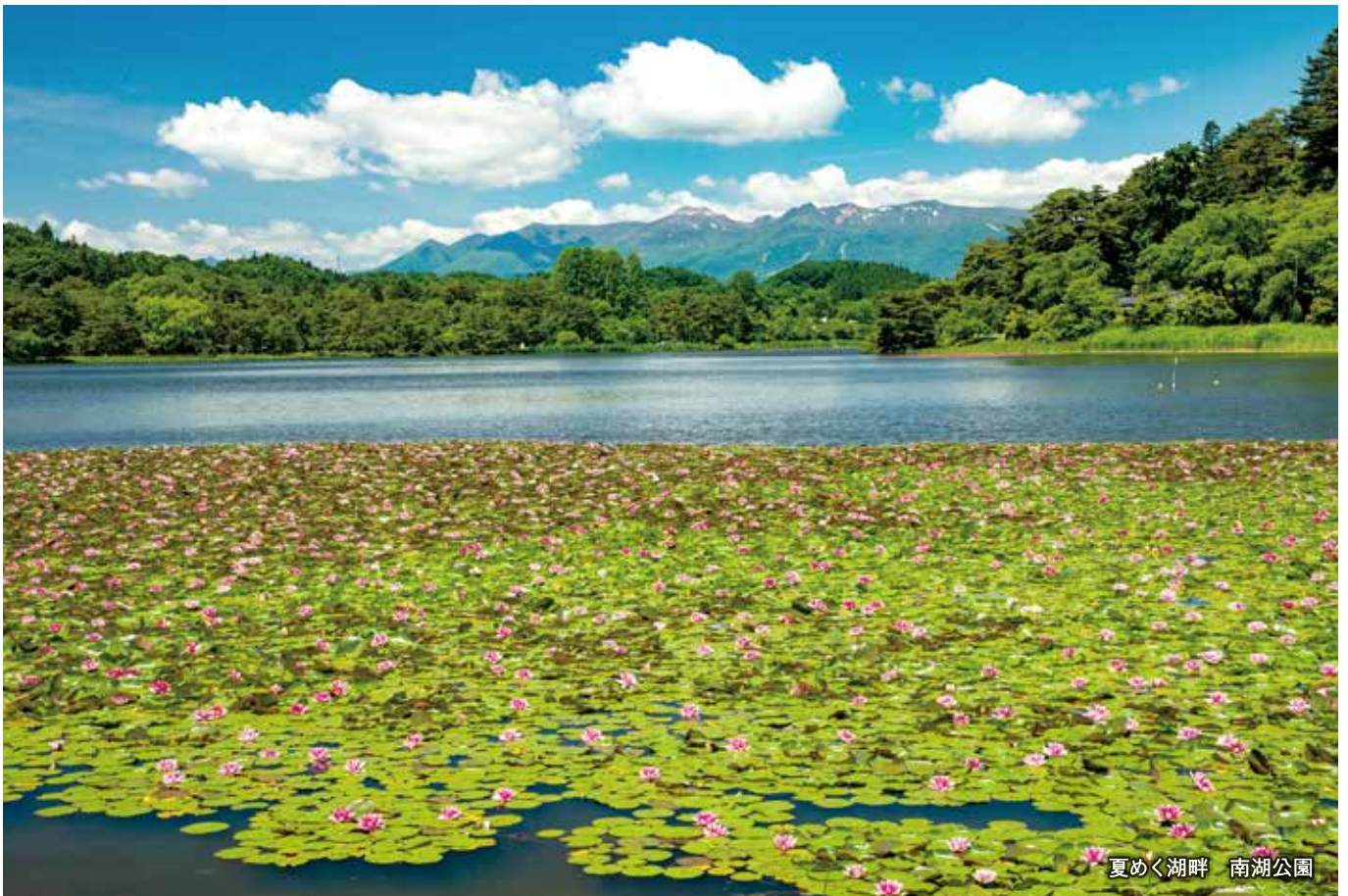
# 風によせて

Shirakawa Kosei General Hospital

VOL.  
**63**

2022.7

KAZENI  
YOSETE



夏めく湖畔 南湖公園

CONTENTS

- ごあいさつ ..... 2
- 看護部長挨拶 ..... 3
- 特集 ..... 4
- こんにちは！新任です ..... 4
- 自宅で息を引きとるとのこと ..... 5
- 院内ニュース ..... 6
- 心理カウンセリングについて ..... 7
- 登録医療機関の紹介 ..... 7
- 学生募集 ..... 8



## 失語症友の会のご紹介



JA福島厚生連  
白河厚生総合病院



## ごあいさつ salutation



病院長  
農村健診センター所長  
**大木 進司**



### 今月の表紙 Cover Story

#### 【 夏めく湖畔 南湖公園 】

南湖に睡蓮の花が咲くと夏が来たと感じます。春は桜、秋は紅葉、冬は雪景色、そして湖面に睡蓮咲く夏。白河に南湖公園があることを感謝しつつ、季節を感じに四季折々訪れます。

## 「インフォームドコンセント」

今年は梅雨入りが早く、蒸し暑い日が続いています。昨年の夏はコロナ禍の中、日本でオリンピックが開催されました。あれからもう一年が経とうとしていることに時の流れの早さを感じます。

最近では感染状況も落ち着きを見せ、社会が徐々に元の姿に戻ろうとしていることを肌で感じますが医療の現場ではいまだコロナ禍が続いています。多くの病院ではお見舞いや面会に何らかの制限を設けているところがほとんどではないでしょうか？患者さんはご家族や知人のお見舞いや面会を受けることができず、ご家族は患者さんの様子を気軽に知ることができません。患者さんやご家族のストレスは並大抵のものではないことは容易に想像できます。また医療者側も限られた時間の中で患者さんやご家族に正しい情報を伝えいかに安心して医療を受けていただくか、患者さんの不安や孤独をどう払しょくしていくかなど信頼関係の構築に日々腐心しています。

みなさんは「インフォームドコンセント」、「インフォームドチョイス」という言葉をご存知でしょうか？インフォームドコンセントは「説明と同意」、インフォームドチョイスは「説明と選択」と訳されます。どちらも医療を受ける患者本人の権利や自己決定権をあらわした言葉であり現代医療においてはごく一般的な考えといえます。欧米で生まれたこの概念が日本に浸透していくまでには、文化や宗教、価値観の違いなどから様々なハードルがありました。

ところでみなさんは自分の命にかかわる治療法の選択を自分自身で行いますか？20年前のある統計では日本人はイエスが50%に対して海外では80%でした。また家族の重病を伝えたいかという質問に対してはイエスは日本人32%に対して海外では80%でした。この20年でその差は縮まったと思いますが、私が医師になった1990年代初めは告知、特に高齢のがん患者や小児の難治性疾患などに対しては患者本人の知る権利は前提としてあるものの、家族の意向確認が必要とされていました。つまりまず家族に病状の説明を行い、ご本人にどう説明するかを相談するといったやや変則的な方法がとられていました。小児や高齢の家族に精神的ショックを与えたくないという家族としての配慮が優先されていたことが背景にあります。私自身はこのような考えのすべてを否定するつもりはありませんし欧米との文化の違いも考慮する必要がありますと考えています。

近年は医療が高度化したこともあり伝えるべき情報も多く内容も難しくなっています。限られた時間の中で伝えようとする一方的な言いっぱなしになってしまうことがあります。また治療法はこれとこれ、メリットとデメリットはこれとこれ、決めるのはあなたですという風にいわれても患者さんはその場で冷静な判断はできないものです。患者さんの価値観や人生観、生活環境、さらに意思決定能力をきちんと把握したうえで、最終的に「自分のこと」として決断を下せるよう導かなければなりませんし、ある程度こちらから推奨される選択肢を示すことも時として重要です。

極論するとどれだけ言葉を尽くしても、医療者と同じレベルで理解してもらうことはその専門性からも相当困難であることを念頭におかなければなりません。それでも患者さんが納得して後悔のない選択ができるように可能な限り寄り添うことが大切です。一度決断した後も迷うのが人の常であることを考えると、選択した後のフォローもきわめて重要であると考えます。

### 白河厚生総合病院について

#### 基本 理念

地域を守り地域の皆様に  
愛される病院を目指します

#### 基本 方針

私たちは

- 一、医療、保健、福祉事業を通して地域住民の健康を守り、豊かな暮らしに貢献します
- 一、県南の中核病院として関係機関との連携を深め、地域医療の向上に努めます
- 一、患者さんを全人的に理解し、優しさと思いやりをもって接します
- 一、十分に説明をし、患者さんの意志を尊重した医療を実践します
- 一、使命を自覚し、たゆまず研鑽を積んで医療の質の向上と人材の育成に努めます

## 「就任のごあいさつ」

このたび、4月より看護部長に就任いたしました、鈴木文子です。皆様には、日頃より白河厚生病院、看護部を支援していただき誠にありがとうございます。

私たち看護部は、当院の理念である「地域を守り、地域の皆様に愛される病院を目指します」を目標に地域の人々の生活に寄り添い信頼される看護を目指しております。また、そのために、看護師一人一人がやりがいを持ち働くことのできる環境を促進していきたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症においては、世の中では新しいライフスタイルを取り入れながら、従来の日常を少しずつ戻しつつありますが、医療の現場においてはまだまだ終わりが見えないのが実情です。新米看護部長として、日夜奮闘するスタッフの働く環境を少しでもよくしたいという思いでおります。

そこで、今年度の看護部の方針として、心理的安全性の高い職場環境の推進を掲げました。心理的安全性とは、誰もが不安を感じることなく自分の意見を率直に言い、行動できる状態を言います。単に仲のよい組織ではなく、地位や経験に関わらず組織やチームの誰もが意見や素朴な疑問を発言できることが心理的安全性の高い組織の特徴です。心理的安全性を高めるための構成因子として1. 話しやすさ（自ら発言し、発言を歓迎する）2. 助け合い（困ったときはお互い様）3. 挑戦（とりあえずやってみよう）4. 新規歓迎（新しいものをためし、前例のないものを歓迎する）という4つの因子があります。これらの行動を活性化することが心理的安全性を高めることとなります。なぜ、心理的安全性が必要なのか、組織は人で創られています。そして今は多職種によるチームで、患者さん自身の力を引き出せるように支援をしています。チームの中で心理的安全性が保たれることによって、意見交換が増え、お互いに学び、高め合うことでメンバーのレベルが向上します。つまり心理的安全性の高い環境は、患者さんに対する医療の質の向上につながると考えるからです。

心理的安全性を構築するための方法の1つとして感謝激励の気持ちを伝えることがあります。相手にありがとうを伝えること、某ファストフードでスマイル¥0がりましたが、ありがとうの感謝の言葉はお金では買えないかけがえのない原動力になるのです。患者さんからのありがとうの言葉で、私たちはどんなにつらくとも頑張ることができるのもその効果ではないでしょうか。

職員がやりがいを持ち、ともに学びながら、楽しく働く職場、その職場環境をスタッフとともに創っていきたいと考えております。そして皆様に信頼していただける病院を目指してまいります。



看護部長  
鈴木 文子

### 看護部について

#### 基本理念

地域の人々の生活に寄り添い、  
信頼される看護を提供します

#### 基本方針

私たちは

- 一、安全で安心できる看護の提供に努めます
- 一、優しさと思いやりのある看護を提供します
- 一、地域および医療者間の  
連携を密にした看護を実践します
- 一、専門職業人としての使命感と倫理観を  
身につけ、自己研鑽に努めます

Special  
特集  
feature

# 失語症友の会のご紹介

リハビリテーション科 言語聴覚士 飯村 瑞樹

## 失語症とは？

高次脳機能障害の1種であり、主には脳出血・脳梗塞などの脳血管障害によって脳の言語中枢が損傷され、「話す」「聞く」「読む」「書く」といった言葉の機能が障害された状態を言います。失語症では、「相手の言葉を理解する能力」や「会話や文字でものごとを表現する能力」が失われるため、日常コミュニケーションが難しくなる方が多く見られます。

## 失語症友の会とは？

失語症者が退院後、患者同士が集まると共に、言語聴覚士も自発的に参加して互いに会話を行う目的として失語症友の会が設立されています。昭和50年代から全国各地に友の会が設立されており、中央の集合体として1982年に「全国失語症友の会連合会」が発足しています。以来、毎年各地持ち回りにより全国大会を開催し、学習会と交流（親睦会）を実施してきました。福島県では、会津・郡山・いわき・白河等の各地区で失語症友の会が設立されています。

## 白河小峰会について

県南地区の失語症友の会は、「白河小峰会」という名称で活動しております。

この会では、「参加する方々がお互いに交流し、親睦を深める」「話すことを皆で楽しむ」「コミュニケーション能力を高める」「様々な問題について一緒に考える」「外出する機会をもつ」という5つの目標を掲げ活動しております。現在は、7名の会員が在籍しており、毎月工夫を凝らした行事やゲーム、テーマを決めた話し合い等を実施しております。この会の活動に興味のある方や、言葉に障害をお持ちの方とご家族の参加をお待ちしております。会に関心をお持ちの方、参加をご希望の方はリハビリテーション科言語聴覚部門までお気軽にお問合わせ下さい。

又、2022年12月11日には、福島県失語症友の会交流会が予定されておりますので、併せて参加をご希望の方はご連絡を宜しくお願い致します。



※令和3年度 小峰会総会

こんにちは！  
**新任**です  
新しい先生が  
着任されました

脳神経外科  
**西澤 威人** (にしざわ たけと)  
【出身地】宮城県  
【趣味・娯楽】アウトドア 地域のため頑張ります。  
略歴 ● 平成27年 埼玉医科大学卒業  
資格・専門 ● 脳神経外科専門医、血栓回収実施医



## 自宅で息を引きとるとということ

白河厚生総合病院総合診療科部長 宮下 淳

前回、総合診療科が「在宅訪問診療を始めました」というお話をしました。引き続き、訪問診療のお話をします。

近年の全国調査では、60%程度の方が「人生の最期は自宅で迎えたい」と希望していると報告されていますが、8割以上の方が医療機関で亡くなられているのが現状であります。もし、人生の最終段階を迎えつつある患者さんが、最期を自宅で迎えたいと希望された場合、それを実現するためにはどうしたらよいのでしょうか。そのような希望をもった患者さんの家族は、希望を叶えてあげたいけれども、家族の負担がどれくらいなのか、いろいろな症状がでたらどうしたらいいのかなどの心配がたくさんあると思います。

自宅で患者さんが最期を迎えられるように介護する（在宅でのお看取りをする）場合、家族による見守りやケアは不可欠です。しかし、家族の負担が重くなりすぎないように、そして家族の不安を解消し、安心して患者さん本人が最期を迎えられるように、適切な時期に適切な医療やケアを提供できるようにしなくてはなりません。そのために、医師、看護師、ケアマネージャー、介護福祉士、社会福祉士などその患者さんに関係するさまざまな業種の医療・介護・福祉担当者が集まって医療・ケアチームを結成して在宅でのお看取りをサポートしていきます。

まずは、患者さんの自宅の環境整備を行います。家族の適切な協力が得られるかどうかを見極めることは大切です。さらにベッドや手すりの設置など福祉用具の整備を行います。

次に医療・ケアチームによるサポート体制を整えます。どれくらいの医療や看護、介護が必要かについて検討し、医師、看護師、介護士が何曜日に訪問するかのスケジュールを決めます。場合によっては毎日誰かが訪問して状態を把握できるようにスケジュールを組みます。医療・ケアチームは情報をやりとりする専用のアプリで患者さんの状態について常に共有し、状態の変化に対してすぐに対応できるようにします。また、夜間緊急で医療やケアが必要になったときに、緊急で往診する体制を整えます。

私たち総合診療科が在宅訪問診療を始めるようになってまだ数ヶ月ですが、幾人かの人を自宅でお看取りしました。

患者さんが亡くなった日、私が部屋に入っていくと、部屋には患者さんのお気に入りだったのだろうと思われる置物や本が並んでいました。患者さんは、お気に入りの布団の中で、使い心地のよさそうな枕に頭を預けて安らかな表情を浮かべて横たわっておられました。窓からは、新緑の木々の匂いをのせた風が気まぐれに部屋に入ってきました。カーテンが揺れ、患者さんがいつも見ていたであろう青空がちらっと見えました。この数日間、ご家族は、患者さんの訴えに戸惑ったり、大丈夫なのだろうか心配したり、訪問看護師や医師とのやりとりでなんとか問題を解決したりしながら、最期の日を迎えました。おそらく大変な苦勞をなされたと思うのですが、悲しみの中にも全力でその患者さんを介護し、看とったことで、やりきったという思いをご家族の表情から読みとることができました。私は亡くなったことを確認した後、「いま〇〇さんがもしお話できるとしたら、ご家族様にありがとうという感謝の気持ちを述べられると思います」とお話ししますと、家族は涙ぐみながらも、頷いてほほえみ、旅立たれた患者さんをいつまでも見守っておられました。日常の風景の中で最期を迎えられるというすばらしい場面に立ち会えたことに深い感動を感じながら、私は一礼して静かにその場を立ち去りました。

NEWS  
01第62回  
入学式

～白河厚生総合病院附属高等看護学院～

令和4年4月7日

専任教員  
芳賀 洋平

令和4年4月7日(木)第62回入学式が学院講堂で行われ、男性4名を含む27名が入学を許可されました。新型コロナウイルス感染症対策として、在校生はオンラインで各教室からの参加となりました。

前原和平学院長が「人間の素晴らしさを感じ、それを模倣することのできる感受性を育てていただきたい」と式辞を述べました。また、高久忠代表理事理事長、大木進司病院長、鈴木文子看護部長からご挨拶をいただきました。在校生を代表して、3年の白岩李菜さんが「本学院の学生としての誇りと責任を持ち、看護師になるという大きな目標に向かって一緒に頑張りましょう」と歓迎の言葉を述べました。新入生を代表して、明珍つぐみさんが「夢の実現に向け、仲間たちと切磋琢磨しながら、自己啓発に努めていくことを今ここに約束いたします」と誓いの言葉を述べ、新入生は看護の道を歩み始めました。

NEWS  
02

## 初期研修医の採血OSCE

インジェクショントレーナー 看護師長 根本 由利子

令和4年4月23日(土)に初期臨床研修医6名の採血OSCE(客観的臨床研修試験)を実施しました。患者さんの採血を安全かつスムーズに行う手技を身につけるための実技試験です。研修医同士が模擬患者となり、真剣な姿勢で臨むことができました。練習を重ねた甲斐もあり、6名全員が無事合格することができました。引き続き臨床研修医は、指導医をはじめ多職種も協働した2年間の臨床研修プログラムに則った教育を続けていきます。

NEWS  
03

## 新人研修

新人教育担当 副看護師長 薄井 小百合

今年も新入職員を迎える時期となりました。

看護部では患者さんに一番近い存在として、患者に寄り添い専門的な技術や知識を提供するために、計画的に新人育成研修を実施し、日々研鑽に励んでおります。

看護部だけでなく、全職種の新入職員を対象にメンタルヘルスケアにも着目し臨床心理士による講義も取り入れています。また、「各部の配置」「緊急対応ガイドブックの活用」の理解をねらいとし、院内オリエンテーリングを開催しました。各部署を訪問し、訪問先で全職員が携帯している「緊急対応ガイドブック」を用い、出題を受け、解答を行うことで「ガイドブック」の活用を認識付けすることが出来たと思います。ねらい通り「各部署の配置」と「緊急対応ガイドブック活用」の理解が出来ただけで無く、新人が訪問することで各部署からも新人に対する関心を深めることができたと感じています。

医療人であると共に社会人としても基礎となるこの大切な時期を、楽しく意欲的に過ごさせるよう様々な形で研修を企画しながら、全力でサポートしていきたいと思っております。



# 「心理カウンセリング」のご案内

- 【例】
- 漠然としている不安感や無気力、落ち込みなどの気分を改善したい
  - 自分自身のことをもっとよく理解したいなど、性格的なことを何とかしたい
  - 友人や職場などの人間関係やコミュニケーションの問題を相談したい

\*秘密厳守なのでプライバシーが守られます。

※心理カウンセラー（臨床心理士）がお話を伺います。お薬の処方はありません。

- 家族関係について考えたい
- 子育ての悩みを話したい（例：発達障がい児など）
- 学校の適応や不登校などで悩んでいる
- コロナ禍で不安な気持ちが続いているなど、人目を気にせずに話したいなど



## 開室時間

平日 9:00~12:30 14:00~17:00

土曜日  
(第2・4・5)

9:00~12:30

## 休診日

日曜、祝日、第1・3土曜日、お盆(8/16)、年末年始(12/30~1/3)

## 料金

初回 80分 8,000円(税込)

(予約日前日と当日のキャンセル時には、キャンセル料が発生します)

2回目以降 50分 5,000円(税込)

\*医療機関ではありませんが、健康保険適用外であり自費になります。

## 申込み方法

1. 当院 通院中の方：主治医へご相談ください。

2. 当院通院中でない方：電話及びメールにて心理カウンセラーへご連絡ください。

① 予約電話番号 0248-22-2211 (代表) 受付時間 9:00~12:30

\*心理カウンセラーが電話を取れない場合、申し訳ございませんが、おかけ直してください。

オペレーターに「心理カウンセリング ろここ」とお申し付けください。

②メールでのご連絡先 skgh.counselor1@shirakawa-kosei.jp

## 医療連携

### 登録医療機関の紹介

## 田口医院

田口医院は昭和22年に、白河厚生病院に勤務していた初代院長により白河地域の病床不足を解消するために開設されました。当院は内科と外科を主に診療していますが、最近は特に外科に力を入れています。外傷や熱傷、腹痛や胃腸症状、各種がん等の消化器病、肛門痔疾患、皮膚腫瘍切除などです。外科系の診療所が少ない地域ですので、幅広い総合外科的な診療をめざしています。また近年、内視鏡の発展はめざましく従来は発見困難であった超早期がんの発見と、その切除治療まで可能となりました。当院では胃、大腸の内視鏡に鎮静剤を使用して苦痛の軽減に努め、一人でも多くの方が、その恩恵を受けられるように心がけています。今後も白河厚生病院と連携し県南地域の医療に尽力していきます。

田口医院副院長 田口 朋洋



## 診療情報

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	休診
13:00~17:30	○	○	○	○	○	○	

● 住所 / 〒961-0074 福島県白河市郭内 11

● TEL / 0248-24-1111

● 院長名 / 田口 武人 (たぐち たけひと)

### 診療科目

胃腸内科	月~土
循環器内科・呼吸器内科	月~金
外科	月・木・金・日
皮膚科・泌尿器科	月・木・金
整形外科	土・日
脳神経外科	日AMのみ(他は休診です)

白河厚生総合病院附属高等看護学院

令和  
5年度  
入学生

# 学生募集

Shirakawa Kosei General Hospital  
Affiliated Nursing School



募集定員

30名(推薦入学を含む)

修業年限 3年課程(全日制)

願書受付 令和4年11月21日(月)~12月16日(金)  
12月16日消印有効

試験日 令和4年12月23日(金)

受験科目 国語総合、コミュニケーション英語I、数学I、面接

合格発表 令和5年1月5日(木)

受験資格

1. 次のいずれかに該当する方

- (1) 高等学校を卒業した方、または令和5年3月に高等学校を卒業見込みの方
- (2) 文部科学大臣の定めるところにより、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる方

2. 地域の保健・医療・福祉に貢献できる方

卒業後の資格

- 看護師国家試験の受験資格が得られる。また、保健師・助産師学校、大学への編入試験の受験資格が得られる。
- 専門士(医療専門課程)の称号が付与される。



## 募集要項をご希望の方

当学院ホームページより必要書類をダウンロードするか、下記の方法でご請求ください。

### 【郵送で請求する場合】

返信用封筒(角2サイズ、140円切手貼付、ご自分の住所・氏名を明記)を同封し、封筒の表に募集要項請求と朱書きし、下記の住所まで郵送してください。

### 【来校する場合】

月曜日~金曜日8:30~17:00にお越しください。(祝祭日を除く)お越しの際は、事前にお問い合わせください。

福島県厚生農業協同組合連合会

白河厚生総合病院附属高等看護学院

〒961-0005 福島県白河市豊地上弥次郎2番地1

TEL:0248-23-4081/FAX:0248-23-4136

<https://www.shirakawa-kango.jp>

Mail: skouseigk@shirakawa-kango.jp

白河厚生看護  検索



入試案内は  
こちらから

風によせて | 2022.7 VOL. 63

編集  
発行

福島県厚生農業協同組合連合会  
白河厚生総合病院



■住所/〒961-0005 福島県白河市豊地上弥次郎2-1  
■HP/<https://www.shirakawa-kosei.jp>

お問い合わせ

●TEL (0248) 22-2211 ●FAX (0248) 22-2218  
●E-mail info1@shirakawa-kosei.jp

この広報誌は環境に配慮した  
植物油インクで印刷しています。